

窪地マップとは？

① 国土地理院基盤地図情報を活用し、フリーソフトで作製（学識経験者から防災課職員が指導を受け、現在は自前で作製可）。**自主防災会へは最大A0判を無償で提供（用途は防災目的に限る）。**



③ 地域の高低差を色付けし「見える化」。色が付いている部分は、周囲より低く、水がたまりやすい場所ということが分かる。

④ 自治会境界線や地域内の避難場所、主要道路等のランドマークも記入可能。

② 自治会単位で作成するため、該当地区が中央に配置される。

※ 通常の燕市の白図は、市域全体を格子状に切り分けているため、必ずしも自治会単位の白図があるわけではなく、1自治会で白図が複数枚におよぶ場合や白図の端に該当地区が配置されることもあった。

窪地マップのメリット

- ・冠水しやすい箇所が見た目ですぐ分かる。
- ・避難経路検討に役立つ。
- ・雨天時の通学の注意箇所など、普段から活用できる。
- ・目新しいものなので、自主防災会が興味を持ちやすく、地域の防災活動に取り組むきっかけとなりやすい。
- ・配布された住民も、大事にする傾向あり。

地域の防災マップ作成支援【窪地マップの提供】

窪地マップづくりのきっかけ

- ① 平成26年度「燕市防災リーダー養成講座」で『**防災マップづくりの手法**』を学んだ笈ヶ島自主防災会は、実際に自地域の防災マップづくりに着手。
- ② 講師から直接指導いただく中で、**講師手作りで地域の高低差を見える化した「窪地マップ」**を用いて地域の防災マップを作製し全戸配布。
- ③ この取組が、「平成26年度地区防災計画モデル地区」に採用され、「**国連世界防災会議 地区フォーラム**」で発表する場を与えられた。
- ④ 「窪地マップ」が注目を集めたため、**市職員が窪地マップの作製手法を習得し、地域の防災活動に活かしてもらっている。**



笈ヶ島自主防災会の「国連世界防災会議」での発表風景。

地域の防災マップ作製過程



まずは、町内を巡見し地域の強みや弱みを把握。



WSでマップに反映。地域へは学識経験者や市職員を派遣し支援。



防災マップ完成！ラミネートし、リングを取り付け、全戸に配布。講師謝金や印刷代等は市の補助金を活用。 2

笈ヶ島自主防災会以外にも、1団体が防災マップを作成し全戸に配布。25団体が窪地マップを使用して、地域の防災活動実施（計画）中。